

単科精神科病院における 敷地内禁煙化の取り組み

医療法人社団 五稜会病院

○矢崎 秀幸 松田 幸枝 内崎 賢
和田 加奈子 中田 貴子 春名 奈央子
土屋 由美子 田中 倉一 中島 公博



五稜会病院

はじめに

- 健康増進法などから、公共施設・病院などの禁煙化が年々進んでいる
- 精神科病院における禁煙化の実施は困難であるというイメージがある
- 五稜会病院にて敷地内禁煙を実施、その後約2年が経過
- その間の問題や取り組み、今後の課題について報告する



五稜会病院

五稜会病院の概要

- 札幌市北区に位置する単科精神科病院
- 精神病床 193床
急性期病棟38床
療養病棟107床(開放54床 閉鎖53床)
ストレスケア・思春期病棟 48床
- 附属施設
デイケア・共同住居
グループホーム
- 禁煙外来
(日本禁煙学会指導医が担当)



五稜会病院

当初考えられた問題点

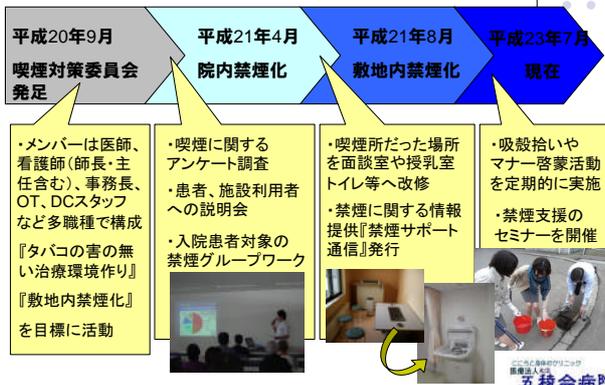
- 1) 依存や長期化した喫煙習慣を持つ方が多く、患者の理解を得るのが困難
- 2) 閉鎖病棟での長期的・社会的入院患者の精神的負担が大きい
- 3) 長期喫煙習慣のあるデイケア通所者の居場所がなくなり、通所をしなくなる可能性
- 4) 隠れ喫煙などによる火災等事故への対策
- 5) 院外での喫煙が増え、近隣住民とのトラブル

長期間喫煙している方への対応が課題と考えられた



五稜会病院

敷地内禁煙化前後の取り組み



五稜会病院

敷地内禁煙化後の状況と対策

- 委員会の取り組みにて、禁煙化直後は当初考えられていた問題は大きく表面化しなかった
- 長期入院患者よりも新規入院患者(喫煙者)への対策に苦慮する場面が増加

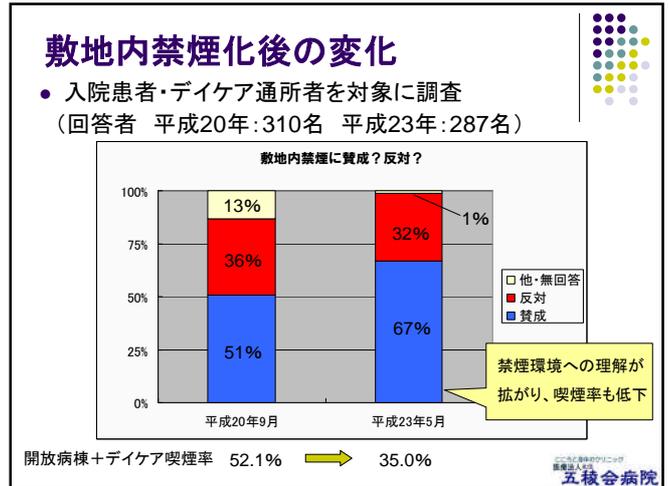
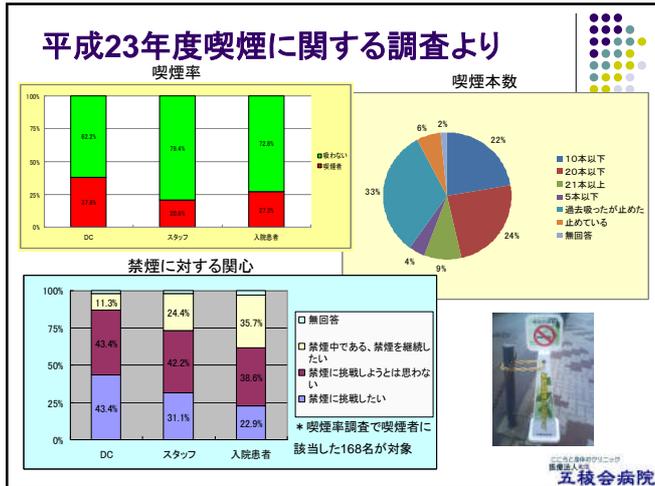
自室やトイレでの隠れ喫煙・時間外の外出・吸殻のポイ捨てによる非喫煙者からの苦情など

禁煙環境に対して
協力的な方ばかりでは無い

- ルールやマナー周知の掲示物作成や、吸殻拾い喫煙者への声かけの巡回等を継続的に実施



五稜会病院



今後の課題

- ルールやマナーの周知は新規患者・利用者に対して常に行っていかななくてはならない
- これまでの対策に加え、禁煙の意志を持っている方への禁煙支援を強化
- 患者や施設利用者だけでなく、職員の喫煙対策への意識を高めることも重要

まとめ

- 精神科病院においても、対象者への説明と環境の整備を時間をかけて行うことでスムーズに禁煙化することが出来た
- 禁煙化後、継続した環境整備と喫煙対策で徐々にルールやマナーについての意識が定着してきている
- 今後も対策は必要である

五稜会病院